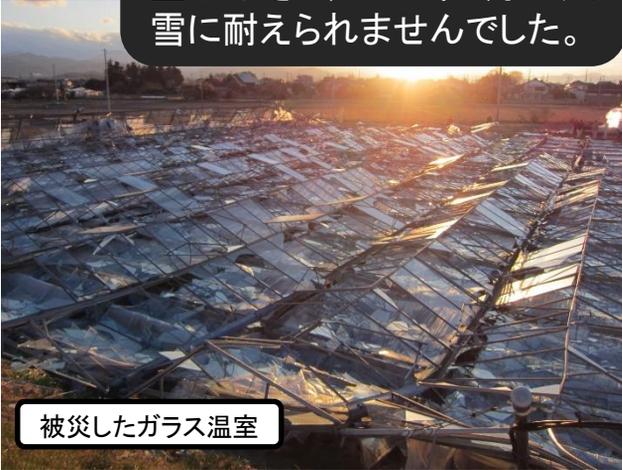
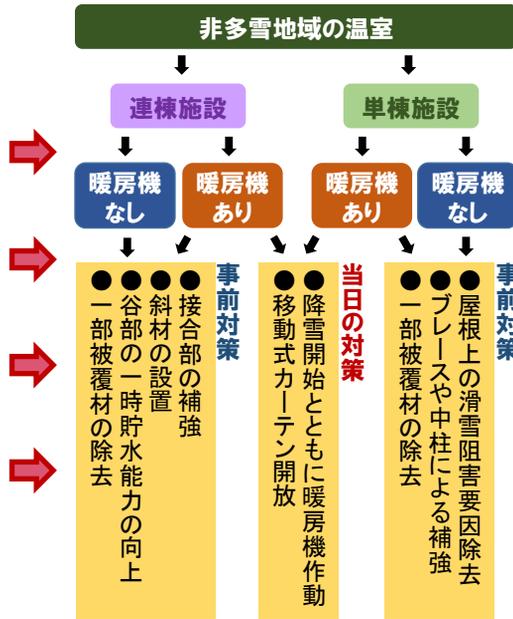


# 非多雪地域における温室の雪害対策

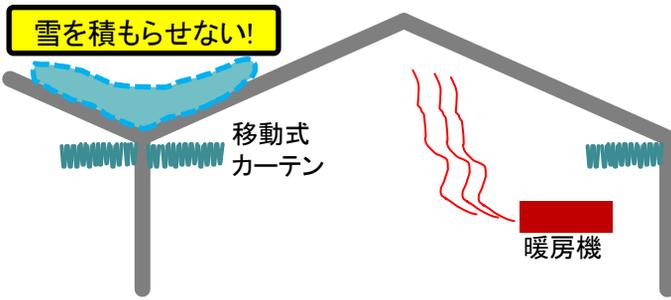
非多雪地域、いわゆる“非雪国”では温室の設計積雪荷重が小さく、2014年2月の大雪に耐えられませんでした。



被災したガラス温室



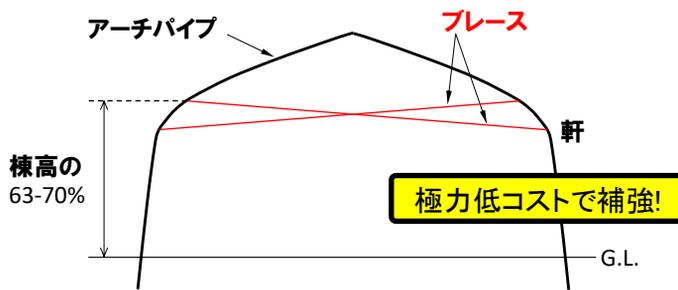
非多雪地域温室の雪害対策をまとめてみました。  
①屋根上の雪の除去、②構造の弱い箇所の補強が重要です。



降雪初期から移動式カーテンを開放した上で暖房機を作動させます。谷部の融雪水が室内に浸入しないよう注意します。



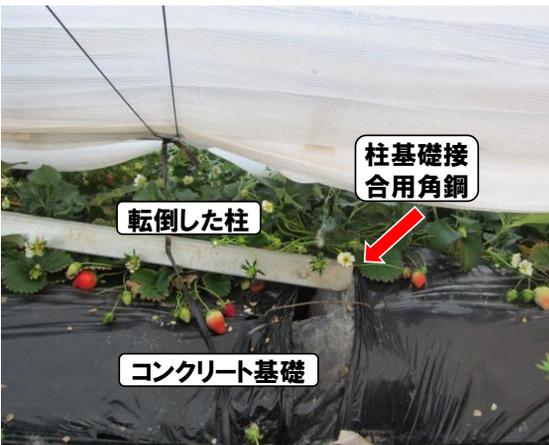
連棟



単棟



棟高の70%程度の箇所にブレースを設置すると、パイプハウスの耐雪強度が最大で3倍程度増加します。

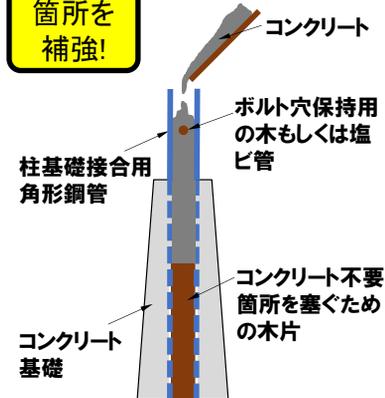


柱基礎接合部の破壊が顕著でした。



接合用鋼管内にコンクリートを充填すると曲げ耐力が25%程度増加します。

弱い箇所を補強!



森山ら (2014): 平成26年豪雪により被災した温室の実態調査, J.SASJ